

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
一般社団法人
神奈川県保育会
発行人
萩原敬三
題字
故内山岩太郎筆

一般社団法人神奈川県保育会の皆様には、日ごろから本県の保育行政の推進に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度四月一日時点での県内の保育所待機児童は一〇七九人と、四年連続での減少で前年比三八三人減となりました。これまで、安心子ども基金を活用し、市町村における保育所整備の支援を続け、過去五年で二四〇〇〇人以上の保育所定員数を増やしてまいりましたが、おかげさまでその成果が現れていたものと受け止めております。

しかしながら、待機児童が解消されていない現状に変わりはなく、今後も保育ニーズ高まりは続くものと考えております。引き続き市町村と連携し、保育所定員の拡充に努めてまいりますので、皆様の

お力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度四月一日時点での県内の保育所待機児童は一〇七九人と、四年連続での減少で前年比三八三人減となりました。これまで、安心こども基金を活用し、市町村における保育所整備の支援を続け、過去五年で二四〇〇〇人以上の保育所定員数を増やしてまいりましたが、おかげさまでその成果が現れていたものと受け止めております。

このようない激変の時期、特に保育所整備をはじめとする保育の供給を拡大することに伴い、お子さんの保育にあたっては、保育士の確保が喫緊の課題となつております。

神奈川県県民局次世代育成部長 石川信之

は、「かながわ保育士・保育所支援センター」を開設し、潜在保育士の現場復帰支援に取り組んでおります。

奈川県においても依然深刻であり、平成二十五年度の政令・児童相談所設置市を除く県所管域の児童虐待相談件数は二四八四件と、前年度と比較し二〇二件(八・九%)増の過去最多となりました。本年五月には、厚木市内で男児が虐待され死亡するという大変痛ましい事件が発生しました。

このようない激変の時期、特に保育所整備をはじめとする保育の供給を拡大することに伴い、お子さんの保育にあたっては、保育士の確保が喫緊の課題となつております。



かながわの子育てをめざす「大児童つりじ」

第48回

神奈川県保育事業大会

やわらかな春の日差しの中、
第四十八回神奈川県保育事業
大会「すべての人が子どもと
子育てに関わりを持つ社会の
実現をめざして」が平成二十
六年四月二十六日(土)に神奈
川県社会福祉会館にて、開催



の朗読が行われました。続い
て、主催者を代表して萩原理
事長より「本大会の趣旨」の
あいさつがなされました。そ
の後、永年勤続者表彰式が行
われ、八十二名の表彰者に賞
状と記念品が授与されました。
また、昨年に功績がありまし
た叙勲受章者三名、厚生労働
大臣表彰受賞者五名、神奈川
県保育賞受賞者二名、併せて
永年保育会の発展に多大の功
績がありました、特別表彰受
賞者二名の栄えある受賞を受
けられました方々に記念品の
贈呈が行われました。受賞を
受けられました皆様には、心
よりお祝いを申し上げますと
共に今後の保育事業での更な
るご活躍をご祈念致します。

引き続き、来賓の皆様を代表
して神奈川県知事、神奈川県
議会議長、神奈川県市長会・
町村会代表、神奈川県児童福
祉審議会委員長、神奈川県保
育士養成校施設協会会長より
それぞれご祝辞を頂戴し、保
育士会会长による「閉会のこ
とば」により閉会致しました。

「開会のことば」の後、「花の
おさなご」の齊唱、「児童憲章」
休憩を挟み、一般社団法人



（一）第一号議案にて一般社団
法人神奈川県保育会役員の改
選について、（二）報告事項に
て（ア）平成二十五年度一般社
団法人神奈川県保育会事業報
告及び決算について、（イ）平
成二十五年度会計監査報告に
ついての議事が審議されすべ
て承認をされました。午後か
らは三会場において研究発表
が開催されました。

開会前に、マイクのトラブル
が発覚！隣の第二会場にワイ
ヤレスマイクの音声が飛んで
しまい、このままではマイクが
使えない！！と広い会場にて
発表者の先生たちに緊張が走
りましたが、そこは前事務局員
の黒沢さんの力量發揮！「本来
の会場のマイクが使えるはず
だから！」と会館内を猛ダッ
シュ！開会の直前にマイクが
使えることとなり事なきを得
ました。

トッピバッターは、海老名
市立保育園プロジェクトチー
ムの下今泉保育園 萩原 小
百合先生・中新田保育園 石
井 明子先生・勝瀬保育園
森野 亜弥先生・下今泉保育
園 西永 裕子先生・門沢橋
保育園 北原 真里子先生・
柏ヶ谷保育園 松岡 淳子先

第一会場

生による、「保育者の資質の向上を図る」～自主研修の取り組み～と題し、海老名市の保育研修の取り組みについての発表をされました。海老名市の取り組みとしての研修会の持ち方から始まり、それぞれの組織、園長・主任・保育士へと裾野を広げながらの研修。相互の研修の協調などの連携をとりながら、保育士としての資質の向上に努めた内容が発表されました。

その中で、特に「しかるということ」と「防災について」

について詳細な報告があり、それぞれのテーマについてのアンケートの実施。そのアンケートの集計から園内研修へと発展させ職員間の共通認識として展開されることで、資質の向上に役立てている様子が伺うことができました。

そのなかでも「かかるといふこと」についてはひとつ

雑誌投稿の文章から、現場の

保育士一人ひとりが自分の姿

に立ち返り、継続的なアンケート実施により、その間の変

化などを客観的に個々が把握できる取り組みとなり、その後別のテーマへの展開までつながるとしても有意義な研修内容の発表となりました。

二番目の発表者は湯河原町立保育内容研修会のおにわ保育園 鈴木 美穂先生・力石 久子先生・まさご保育園 森 初水先生・たちばな保育園 名川 比呂美先生による発表「お散歩を通して楽しく豊かな保育」～みんな大好き！ゆがわら 歩いて見つけちゃおう！～と題して、湯河原町全体で取り組んできた、お散歩マップ作成の過程による、成果の発表が行われました。

保育所においてお散歩は大変日常的な活動のひとつであり、保育士たちの資質の向上だけでなく、その取り組みにかかることによって子どもたち自身も成長を遂げていく大変おもしろい着眼での研究発表となりました。

湯河原町としての地域性も

海・山・温泉と様々な経験を身近な環境で得ることができるもので、うらやましい部分を感じました。また、それをお散歩に出かける中で、ただお散歩に出かけるだけでなく、その時々でテーマを設定し、その中で子どもたちの主導でいろいろな発見を積み重ねていく中で、直接かかわっている保育士たちのこれまでと違った視点に新たに気が付かされる場面など大変参考になることがたくさんありました。

それぞれの保育園での取り組みが最終的に全市への広がりをみせ、配布された手作りのおさんぽマップの完成度の高さに驚かされました。

三番目の発表は、「防災の意識を高める」～シミュレーションから学ぶ これからの一歩～と題して、足柄上郡保育会 木之花保育園 三橋 幸恵先生・栄光愛児園吉岡 桂子先生の発表となりました。

現在の保育所においては、

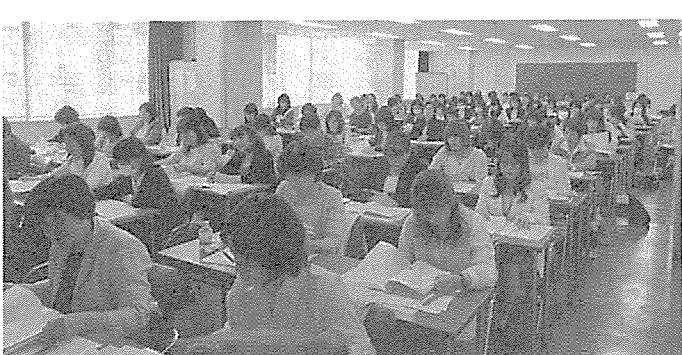
保育所においては避難訓練の実施は必須項目となっていますが、きっとどこの保育園も、その意識も徐々に薄れてきている部分も少なからずあるものと感じます。

そんな中で、もう一度意識を高めるための取り組みとして足柄上郡での保育所五園での取り組まれた、「シミュレーションシート」での防災意識の再確認と見落としがちな部分の再発見へとつなげる取り組みの発表が行されました。

それが保育園での取り組みが最終的に全市への広がりをみせ、配布された手作りのおさんぽマップの完成度の高さに驚かされました。

三番目の発表は、「防災の意識を高める」～シミュレーションから学ぶ これからの一歩～と題して、足柄上郡保育会 木之花保育園 三橋 幸恵先生・栄光愛児園吉岡 桂子先生の発表となりました。

会場は講堂よりいすを持ち込むほどの大盛況となり、当日の天気も初夏の陽気と重なり、途中から冷房が必要？と思わせるほどの熱気となりましたが、大変集中した約二時間となりました。



第二会場

第一会場では第五十五回関東ブロック保育研究大会 第四分科会「地域の子育て家庭への支援の充実にむけて」というテーマに沿って、横須賀市保育会・小田原市保育内容研究会の二つの団体が研究発表を行いました。

横須賀市保育会は、園長先生による研究会という性格上、統計を主に今後の展開を絡め「横須賀市の子育て支援策について～今後の保育所の経営戦略～」と題して発表をまとめきました。現在行っている直接的な家庭支援の方法の説明を中心によくいは、横須賀市の人団動態や頭を悩ませている転出の理由など、支援するご家庭が暮らす地域社会の現状に対する構造分析から着手し、その分析の結果として抽出された今後必要とされるであろう各項目を保育所の機能として付加し、或いは更なる充実を図ることが他の施設との差別化に繋がり経営戦略上のキーとなるといた考え方での発表でした。

その上で、巨大な幼稚園が多く、幼稚園利用率が保育所の三倍という実情や自衛隊に所属するご家庭の定期的な活動、就労を支えていた大企業や工場の撤退など会場の参加者が驚いていた横須賀市の特徴的な地域性を加味して、県内唯一の中核市・横須賀ならではの子育て支援策、そして戦略を練り上げていただきたいと思います。

小田原市保育内容研究会は、市内各園から参加される保育士さんから構成されています。少子化・核家族化が進み生活様式や考え方の変化が見て取れる今だからこそ、保護者にできることとは何か?といふ想いを「保育所での子育て支援」と「地域へ向けての子育て支援」という二つの柱にとそのご家庭への的確な支援は、保育所という施設が持つ明確なアドバンテージであり、それは今後の経営戦略の中にあることは、どの自治体で運営している保育所にとつても共通の考えであると思います。

その上で、巨大な幼稚園が多いことによる真剣な研究の温かい成果なのでしょう。悩んでいる方が手にしてそつと開くその時、温かな想いは必ず伝わると思っています。

【保育所を利用する保護者支援グループ】は市内一〇園の〇〇二歳児の保護者三〇〇名に対し、子育ての悩みについての聞き取り調査を行い、食事・排泄・睡眠などの悩みの種類を整理し、各支援策を検討する中で、段階的な成長発達が解らないという不安と相談先が解らないという不安が悩みの根本であると定義しました。

【気になる子の親子支援グループ】は、各専門機関や部署との密な連携と共に、「子どもたちが快適に生活すること」を主軸に据え、対応だけでなく家庭と保護者双方での共有・共感を目標として研究を進めています。また、専門職として陥りやすい一方的な提案を避け信頼関係を築く為のコミュニケーションを重視するという配慮がきつちりとされていました。

この冊子は、見通しガイドと Q & A から構成されている

待機児が少なく、定員割れ

をどのように防ぐか?どのよ

うに保育所をアピールし入園

へと繋げて行くか?という経

営的な視点からの支援ではなく

、年に一度開催される子育て支援フェスティバルのアンケートなどから見えてくる最

近のご家庭の現状や、悲鳴に

近い本当のニーズに対しても

保育士として何ができるのだ

ろうか?という自己への問い

かけから支援への想いが発生

しています。

実践的な講師を招いている

ことで、疑問を解消して子育

て支援の定義を常に更新でき

る土壤も素晴らしいものだと

思います。

どの項目に関しても地域への愛着やご家庭への配慮が溢

っていました。

今後は、小田原市が運営し

ている子育てポータルサイト

との連携などスマートフォン

やタブレットなどの携帯端末

が主流となっている情報入手

の現状に合わせ、より効果的

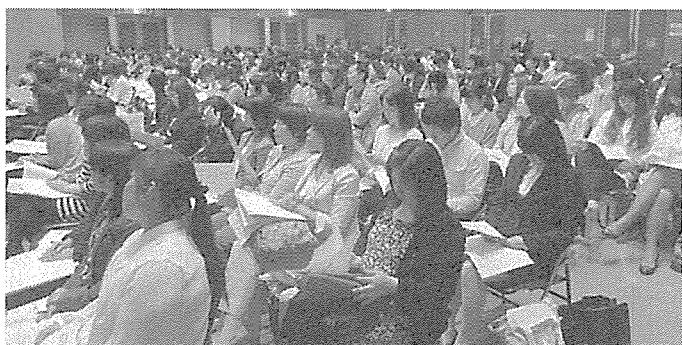
な周知を可能とすることで、より多くの悩める「家庭に笑顔の花を咲かせること」が出来てしまう。

みんなの想いは確実に芽吹いていると思います。

第三会場では「家庭や地域との連携による食育の推進」で二題、「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて」と「フリーテーマ」で各一題ずつの研究発表が行われました。「家庭や地域との連携による食育の推進」より、まず、神奈川県保育内容研究会から、「楽しく食べる力を育てる力」を育てました。尼崎市立保育園園長の元気はお口から「楽しく食べる力を育てましょう」とのテーマで研究発表されました。食機能面からのアプローチ、食機能面と環境面からのアプローチ、環境面からのアプローチと三つのアプローチに分け、目標、方法が分かりやすく、保育士ならではのアイデアも光っていました。アンケートによる実態

調査や口の周りの筋肉の鍛え方等、実践を通して見えてくるものがあり、資料としても大変参考になり、乳幼児期における食べる力を育む大切さが感じられる内容でした。

次に、逗子市民間保育園食育内容研究会から「家庭や地域との連携による食育の推進」のテーマで三園それぞれの食育推進の紹介がありました。地域や保護者が「食育」についてどのような情報が欲しいのか、また、どういう企画を望んでいるのかを知る必要性を感じ、アンケート調査を実施したところ、地域により二つの違いがあることもわかり、実態を把握した上で、各園食育を通して園内はもちろん地域への取り組みが活発に行われ、それぞれの園で特色ある家庭支援・地域支援がなされていました。



ことをねらいとした。研究の積み重ねからその時の現状に合わせて目的、ねらいを立て、神奈川県のわらべうたにも着目しながら、久津摩英子氏、小林衛巳子氏、近藤信子氏の講演会で、わらべうたで心と心が行きかう心地よい関わりが人への信頼関係の始まりとなることや、順番・役交代・ルールを考える経験が社会性を育むことなどを実技とともに学び、わらべうたを伝承していくために、わらべうたカードやペーパーサーツ、わらべうた年間活動表、実践したわらべうたの冊子やCDも作成し、充実し継続した大変良い取り組みがなされていました。わらべうたは、「子どもたちの育ちを見極めながら一人ひとりや集団に向けてわらべうたを取り組み、社会性をはぐくむ」というねらい、三年目は、目的を「わらべうたの実践を通して、様々な友だちや親子での関わ

ることをねらいとした。研究の積み重ねからその時の現状に合わせて目的、ねらいを立て、神奈川県のわらべうたにも着目しながら、久津摩英子氏、小林衛巳子氏、近藤信子氏の講演会で、わらべうたで心と心が行きかう心地よい関わりが人への信頼関係の始まりとなることや、順番・役交代・ルールを考える経験が社会性を育むことなどを実技とともに学び、わらべうたを伝承していくために、わらべうたカードやペーパーサーツ、わらべうた年間活動表、実践したわらべうたの冊子やCDも作成し、充実し継続した大変良い取り組みがなされていました。わらべうたは、「子どもたちへの支援にむけて」と「心がつながるわらべうたわらべうたを通じて広がる人間関係」のテーマで平

らだづくり足・腰の強化」の研究発表が行われました。

「楽しみながら足・腰の強化」の研究発表が行われました。座間市保育会研究会による「あそびを通して育てるか

らだづくり足・腰の強化」の研究発表が行われました。

「楽しみながら足・腰の強化」の研究発表が行われました。

最後に「フリーテーマ」で座間市保育会研究会による「あそびを通して育てるか

らだづくり足・腰の強化」の研究発表が行われました。

「楽しみながら足・腰の強化」の研究発表が行われました。

七月二十四日(金)にホテルキヤメロント・ジャパンにおいて「県・市町村児童福祉主管課長と県保育委員会との連絡協議会」が開催されました。まず、神奈川県保育会理事長萩原敬三氏より「子ども・子育て支援制度について国の制度設計の概要が示されたが、課題は山積している。このような場で、行政と現場の意見交換を活発に行い、子どもにとって良いものにしていきたい。」とのあいさつで始まり、その後、全国保育協議会副会長 小島信也氏による「子ども・子育て支援制度の取り組み状況」基調講演がありました。

基調講演では、小島氏から、「子ども・子育て支援制度は、児童福祉制度始まって以来の大きな改革である。子ども子育て会議を行う中、成果も見

になつてきました。各市町村も九月の条例化に向けて、重要な時期に差し掛かっており、また各市町村の子ども子育て会議の中で、保育の必要量が具体化されてきている。保育園・認定こども園のいずれかを選択するには法人に任せているが、ポイントになるのは、各市町村でまとめた保育の必要量になつてくる。神奈川県は、多くの待機児童を抱えているが、この地域でのグランドデザインが、求められており、各市町村のグランドデザインに基づいて、保育園の役割が明確になつてくると考えている。今後子どもが減少している地域については、保育園が、認定こども園を選択した場合、地域におけるすべての子どもが受け入れられ、子ども集団の確保ができる。

県・市町村児童福祉主管課長との連絡協議会

今まで、保育園は、学校

その後質疑応答で、「今後人

口減少してくる状況の中、

保育園の適正配置を考え、

県は認可しているのか」とい

う質問が出されま

したが、それに対し、

県は、「保育所の必

要性は、市町村が決

定するものである

が、今後の人口推計

をみて、市町村と調

整しながら、適正な

配置を行つていき

たい。」と回答しま

した。

最後に富田相談役から、「この会議

は、各市町村の主管

課長より絶大なる

協力をいただきな

がら、二十六年継続

している。保育園の

卒園児が保護者に

なり、子も孫も同じ

保育園に預けたいとの希望も

あり、新制度後も安定した保

育園運営に努めたい。そのた

めにもこのような会議の場で、

行政と現場の意見交換は、と

ても大切である。」とのお話を

ありました。

第一部終了後、第二部の情

報交換会がフエアーワインド

で行われ、閉会となりました。

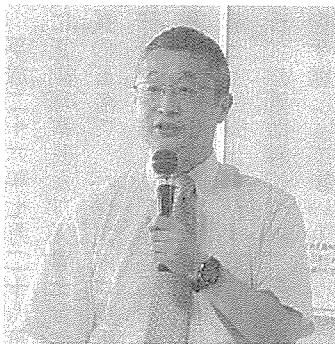
マーテルヘルス研修

平成二十六年六月十八日に

万国橋会議センターにおいて、メンタルヘルス研修が開催されました。

今回は淑徳大学総合福祉学部教授の小川恵先生に「保育職のためのストレスマネジメント・職員の健康管理」をテーマにご講演を頂きました。

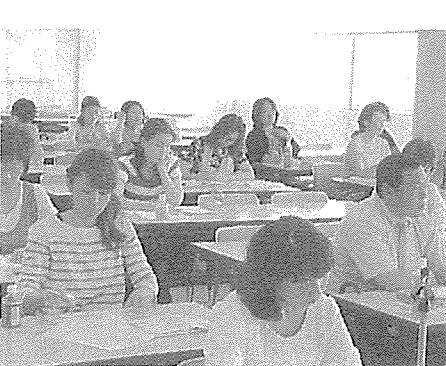
社会情勢が家庭機能を歪める影響を意識し、ストレスが心・身・対人関係に及ぼす影響を知ることからお話し始めました。保育職のストレス増強の背景として保育指針改定後、保育業務の量的質的な負担増があります。保育職が「家庭養育の補完的役割」から「子育て全般に対する支援的役割」へ拡大したことと、現代の家庭の持つ問題の影響を受けるようになります。



が様々な場面でストレスに直面し、それが家庭機能や養育機能に影響を及ぼしていることを、意識しなければなりません。社会情勢の変化から女性の仕事と育児の負担が増し、そこから養育・癒し・愛などの家庭機能が低下し、その影響が養育不足な子どもたちの問題行動として保育へ持ち込まれるようになります。

ました。家庭機能の維持には父親の養育参加が必要ですが、まだ母親の負担感が高いのが現状です。余裕が持てないと育児は難しくなり、養育困難感は子どもとの幸せ(フイット感)を揺るがせます。

保育職のストレス増強の背景として保育指針改定後、保育業務の量的質的な負担増があります。保育職が「家庭養育の補完的役割」から「子育て全般に対する支援的役割」へ拡大したことと、現代の家庭の持つ問題の影響を受けるようになります。



子どもに対する期待への諦めや子どもへの怒りが自己嫌悪となり、他者の視線に避難を感じ、防衛的で頑なになつてきます。そして、他者に避難されない厳しい育児を選択していきます。そこから、保育者は母の危険信号をキヤッチしやすい職種であるという自覚と支援スキルが必要になってきます。また、親の困難に注意を払い、援助へとつなげる人(育児支援)としての保育職は、社会の困難の高まりから生ずる問題も増加し、その結果、重要性も負担も増しています。しかし、支援の基本は、ストレスの影響を理解し健康な生活リズムと家庭を守るアドバイスができる」と、前向きな明るい子どもを育てる支援であることです。

最後に、保育職の職務ストレスとして●職務理念・やりがいの大きさと現実のギャップ●コミュニケーション・困難・無理解とトラブルなど心理的負担の重さ●個人の領域へ踏み込む難しさ●専門知識の必要性の多さがあります。こんな時代だからこそ、保育者は、家庭や子ども達への関わりから、大切な他人に関わる力を育み、仕事や地域の場で互いに頼りあえる大人になることを意識し、心が健康な生涯発達を目指す

こと、同時に職場の人間関係を維持する働き方が自分を守るマネジメントとなります。私たちは、労働環境の厳しさは仕方ないと感じ、受容し、疑わないよう無意識に選択していきます。むしろ、対人関係がストレスを生み出すと誤解し、個人主義をとることから、社会や家庭で孤立し、バーンアウトします。だからこそ、自己中心性を離れ、信頼確認が大切となります。職場ストレスは、対子ども・保護者対応の負担がもたらす緊張と、保育者個人の能力差による業務上の困難から現れます。「対人関係がストレス」「自分(同僚)が未熟」

と感じる場合、それは、心だけでなく職場環境も不健康です。そこで、職場での人間関係の大切さを知り、円滑にするコミュニケーション技術(挨拶・声かけ)を育てなければなりません。また、働く場で自分を信じることは大切であり、健康を保つ上で不可欠であること、自分の出来る範囲を知り、他者の必要に応えることが、保育者の社会性や能力を成長させます。

最後に、保育職の職務ストレスとして●職務理念・やりがいの大きさと現実のギャップ●コミュニケーション・困難・無理解とトラブルなど心理的負担の重さ●個人の領域へ踏み込む難しさ●専門知識の必要性の多さがあります。こんな時代だからこそ、保育者は、家庭や子ども達への関わりから、大切な他人に関わる力を育み、仕事や地域の場で互いに頼りあえる大人になることを意識し、心が健康な生涯発達を目指す

ことでした。

現代の社会情勢では、個人

保育士の処遇改善について 要望書を提出



平成二十七年度から施行される子ども・子育て支援新制度に向けての大きな課題が保育士の確保ということは申し上げるまでもないのですが、このたび神奈川県保育士会から保育士の処遇改善について意見をいただきたいところです。現時点で重要と思われる点をとりまとめましたので以下の事項について要望をいたしました。

平成二十六年七月二十八日に正副理事長及び保育士会会長の五名で、パシフィコ横浜研修センターにて全国保育協議会会长万田康様及び全国保育士会会長上村初美様に保育士の処遇改善について要望書を手渡してまいりました。

1 保育士等の増員について

- ・配慮を必要とする子や障がい児を受け入れるための人員配置の見直しと増員
- ・都市部を中心とした待機児童を減らすための人員配置の増員
- ・事務作業を円滑に行うための人員の増員
- ・看護師の配置
- ・研修への参加や有給休暇が取得しやすくなる為の人員の増員

2 労働条件の改善について

- ・精神的不安を抱える職員の増加に対応するカウンセラーの配置など精神的ケアの実施
- ・一般社会に相応する保育士の賃金体系の見直しと労働条件の向上と改善

3 保育の質について

- ・保育士をめざす学生の人材育成と確保
- ・保育士の資質向上のための研修参加の保障と書籍等資料購入補助費の確保

4 環境整備について

- ・男性保育士に対する整備の改善や保健室の確保
- ・施設整備費(改築を含む)の増額と安定的財源の確保

5 最低基準の見直し

- ・保育士配置基準の見直し(特に3歳児、4歳児、5歳児)
- ・園児一人あたりの有効面積を増やして欲しい

6 その他

- ・保育園の保育をもっとアピールしてほしい
- ・調理、用務の仕事もアピールしてほしい
- ・療育施設の増設
- ・専門職員による育児相談業務の充実



「この機関紙は、共同募金配分金により発行しています」